【授業科目】健康と生活行動の科学　　Introduction to Daily Life Behavior

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
草野 純子、病院技師	１年次 後　期	必　修	２	３０	講義	あり	巻末掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／人間の生活とは、人間が生れて死ぬまでのプロセスにおいて行動し、経験することのすべてで、日々の生きる営みであり、その連続が人生を形づくっている。生活の営みとは、息をする、食べる、排泄する、眠る、活動する、身体を清潔にする等の活動が、人間が幼い頃から獲得してきた方法で、自らの力で日々繰り返され暮らしが成り立っていくものであり、日々の生活の営みは人間の基本的ニードと密接に関係する。生活者として生きる(生命を維持し、生活を営む)ために、ニードの充足を求めて行う行動を日常生活行動という。ヘンダーソンは、看護の独自の機能として生活行動への援助を挙げている。 本科目では、人間の基本的ニーズである、「食べる」「動く」「排泄する」「トイレへ行く」「姿勢を保持し、体を動かす」「コミュニケーションを図る」などの生活行動が、人間の身体の形態と機能がどのように関連して設計されているか、人間のニードや生活構造の視点に基づいたアセスメント、生活行動への援助の必要性についてともに考えていく。 事前・事後学習を含めて学習した内容をポートフォリオに整理する。 課題に対するフィードバック方法／授業の開始時に前回の授業の質問に対応する。
実務経験に関する授業内容	看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の臨床経験をもつ教員が、人間の基本的ニーズである生活行動が人間の進退の携帯と機能がどのように関連しているかなどの知識について、関連する資料・教材を交えながら教授していく科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	１．人間の形態と機能が生活行動とどのようにつながっているか理解して述べることができる。 ２．人間のニード、生活構造の視点から、生活行動をアセスメントすることの必要性を述べることができる。 ３．人間のニード、生活構造の視点からのアセスメントに基づいた、生活行動への援助の必要性について考えることができる。
時間外学習に必要な内容・時間	第 2～12 回事前学習：病院のリハビリ技師の授業です。シラバスをよく読み、指定の教科書を事前に読んでおく。単元と関連する「人体のしくみと働き」の内容について理解を深めておく。（各 30 分） 事後学習：授業内容を復習しながら疑問点は次回に質問するなど解決しておく。（各 30 分） 第1回の事後学習：自分の生活行動・習慣を健康の視点から振り返り、次回の授業課題に応えられるように準備する（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載しています。日々の自己学習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回：　授業の導入。人間のニードと生活行動、看護の関連を学ぶ。生活構造論から見た生活、生活行動と看護を考える。 第 2～5 回：生活行動に関連する身体の形態と機能 1「動く」 動きのメカニズムと生活動作を関連させて、自立に向けた援助について考える。 生活行動に関連する身体の形態と機能 2・3　「姿勢を保持、体を動かす」 姿勢や運動を支えるしくみ―骨格・関節や筋―と日常生活行動との関連を理解する。 第６～9 回：生活行動に関連する身体の形態と機能 4「食べる」 身体の形態と機能を食事行動に関連づけて考える。 第 10～11 回：生活行動に関連する身体の形態と機能 5「衣服を着脱する」 上記の学習を活用して、更衣動作と援助について考える。 生活行動に関連する身体の形態と機能 6「排泄する」 吸収した物質を処理し排泄する仕組みと日常生活行動の関連を理解し、円滑に排泄するための援助に結び付ける。 生活行動に関連する身体の形態と機能 7「トイレへ行く」 上記の学習を活用して、「トイレへ行く」という生活行動の援助について考える。 生活行動に関連する身体の形態と機能 8「しゃべる、コミュニケーションを図る」 認知機能の障がいが生活行動の自立や困難にどのように関連しているかを学習する。 第 12・13 回:事例に基づく生活行動援助（グループワーク） 第 14・15 回:事例に基づく生活行動援助（グループ発表） （第 2～11 回はリハビリ技師が担当する授業です。順序が変更になることがあります。）	１草野 2～11 病院技師 12～15 草野
評価方法 評価基準	課題ﾚﾎﾟｰﾄ９０％、グループワーク５％、授業態度５％

教科書	菱沼典子：看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会 大久保暢子編：日常生活行動から見るヘルスアセスメント　看護携帯機能学の枠組みを用いて　日本看護協会出版会	参考書等	マズローの心理学；小口忠彦監訳、産業能率大学出版部 生活習慣と健康；森本兼曇監訳、HJB 出版局、他適宜紹介します。

学生への助言等	1 年次前期科目「人体のしくみと働き」と基礎看護技術、ヘルスアセスメントをつなぐ大事な科目です。 生活行動と健康の関わりを理論的に学習していきます。生活行動を人体のしくみや働きの知識で説明し、その状態が健康とどのようにかかわるのか関連を考えながら学習して下さい。 学習（する）した内容を自分のことに置き換えて健康について考えてください。